

◆やまがた子育て講座◆

事例1 「親子で話そう ゲーム・SNSの使い方」

会 場：朝日町立大谷小学校

講 師：鈴木 理枝子 氏（県家庭教育アドバイザー）

<PTA研修会>

- 1 お子さんの様子について
- 2 SNS のプラス面とマイナス面
- 3 ゲーム・ネットゲームの使い方を中心に
 - ・ゲーム依存にならないために
 - ・ルールを決めるために話し合いはどうしたらいい？
- 4 スマホの使い方を中心に
 - ・ネットの危険から守るために

<参加者の感想>

- ・子どもとの関わり方がとても勉強になりました。頭ごなしに怒ってしまうときがあるので、一呼吸してきちんと話し合うなど、やはり話し合いがとても大事なんだと再確認することができました。
- ・頭ごなしに言う親にはなりたくないなと思っていましたが、日々精一杯で忘れていました。たくさん笑いながら子どもと一緒に成長したいです。
- ・親は子どものお手本になっていることをあらためて実感しました。
- ・スモールステップで「守れた」ということを子どもに思ってもらい、自信をつけていきたいと思いました。



事例2 「野菜を知って野菜をとろう」

会 場：真室川町立真室川北部小学校

講 師：吉田 知史 氏（カゴメ株式会社）

<体験>

- ・講座が始まる前に、参加者に体内の推定野菜摂取量を調べる計測器「ベジチェック」を体験いただいた。

<全体講演会>

- 1 野菜摂取量
 - ・町の野菜摂取レベルと全国平均、一日に必要な野菜摂取レベル
- 2 なぜ野菜は必要か
 - ・野菜から取れる栄養素と抗酸化物質の働き、例としてトマトの機能性情報
- 3 野菜の上手なとり方
 - ・野菜のとり方のメリットとデメリット、吸収率が高い調理の仕方

<参加者の感想>

- ・親の生活習慣や食生活はそのまま子供に直結するのだと思いました。大人が気を付ける、大人が楽しむのが大事！
- ・子どもにも野菜をしっかりとることが大事だということを伝えながら、食事を工夫してみたいと思います。



事例3 「共に学び 共に笑い 共に育ちあう

～共育(ともいく)応援団からのメッセージ～

会 場：新庄市立升形小学校

講 師：土屋 常義 氏(県家庭教育アドバイザー)

<全体講演会>

1 現代はスマートフォンが普及し、便利になった反面、親が子と向き合う時間や、子どもの「原体験(幼少期体験)」の機会が減少傾向にあります。象徴的なものとして、「ぼくの願いはスマートフォンになることです。」という子どもの作文が紹介されました。

2 一方、大人が子どもと向き合う時間は限られており、子どもの頃の体験や、大人との関わり

方などは生涯にわたる人格の基礎を培う基盤であるため、親と子が『共に学び・共に笑い・共に育ちあう』ことが大切であるとお話いただきました。



<参加者の感想>

- ・スマホに関する子どもの作文は衝撃的でした。自然体験などを通じて、子どもが自己肯定感を高められる生活をしたいと思います。
- ・「子どもは親を見ている」、本当にそうだなと思います。楽しみながら頑張りたいです。

事例4 「家庭における子育てについて ～子どもの育ちを支援して～

会 場：川西町立吉島小学校

講 師：小松 ひろみ 氏(家庭教育アドバイザー)

<全体講演会>

1 大切にしたい3つの視点

①さまざまな子育て論

・前向きな言葉がけの重要性。

②生活リズムと科学的根拠

・「快食」「快眠」「快便」の重要性について、模型や図などを使って説明。

③やまがた子育て5か条を読み込む「心をつなごう親子の対話 よさを引き出すあったかことば」

2 子どもの脳を傷つける親たち

・心無い言葉がけや子どもの前での夫婦喧嘩など、悪い影響のある行動について説明。

3 親として大切にしたいこと

<参加者の感想>

・失敗談などを交えた話でとても面白かったです。子どもとの関わり合いで、どんなふうに伝えたら良いかなど悩むこともありましたが、先生のお話を聞いてもっと子どもと会話を楽しんでみようと思えました。

・朝ごはんの大切さ睡眠の大切さを改めて感じました。生活習慣を見直す良い機会となりました。



事例5 「自分を大切に 輝く命のメッセージ ～生きて輝くために～」

会場：川西町立川西中学校 体育館

講師：後藤 敬子 氏（ごっと助産院 医院長）

<講演会>

- 1 【1学年】：身体の成長・心の成長
- 2 【2学年】：性と命のバトン、自分らしさってなんだろう？
- 3 【3学年】：思春期の心とからだ・不安や悩みに答えて
発達段階や学年の課題等に応じて、内容を変えてお話しいただいた。



<参加者の感想>

- ・自分や友達の命を大切にしていきたい。
- ・相手を理解し、認め合える関係を築いていけるようサポートしていきたい。
- ・生まれてくることは奇跡、両親に感謝したい。
- ・自分の気持ちを自分でコントロールすることが大切。
- ・これからの中学校生活、家族との向き合い方、高校生になったらどんな生活を送ればいいのかよくわかった。



事例6 「適度な運動で健康な身体と前向きな心を育む

～スポーツとメンタルの関係性～」

会場：鶴岡市立湯野浜小学校

講師：佐藤 大 氏（県民の海・プール スパール 所長）

<講演会>

- 1 健康とは
- 2 適度な運動とは
- 3 前向きな心とは
- 4 運動が心にもたらす効果
- 5 メンタルトレーニングについて
- 6 質疑応答

<参加者の感想>

- ・子どもと一緒に身体を動かして、楽しくさらにコミュニケーションをより深めることができました。
- ・親が子どもの目標を決めるのではなく、子ども自身で目標を設定することで、あきらめずに努力していけるのだということを改めて考える機会となり、親は子どもが決めた目標を応援する側になろうと思いました。
- ・運動することで体だけでなく心も前向きになれると聞き、自分のために少しでもいいので時間をつくり、体を動かしたいと思いました。



事例7 「どの子ども元気に自分らしく成長するために
～発達凸凹を受け止めるおとなのかかわり方～」

会場：庄内町立余目第二小学校

講師：白畑 真由美 氏（東北公益文科大学 准教授）

<講演会>

- 1 発達の凸凹を理解した声かけの工夫
- 2 「寝る子は育つ」、睡眠の大切さ
- 3 子どもの声を聴くことを意識したかかわり

<参加者の感想>

- ・子どもの成長にとって親の関わり方や睡眠が大事だということがわかりました。子育てについて再確認することができた時間でした。
- ・子どもの話をしっかりと聞くこと、睡眠は大切だということがとても勉強になりました。
- ・早寝、早起きなど親も一緒に頑張っていこうと思いました。
- ・子どもに対しての言葉のかけ方など具体的に例を出していただいたので参考になりました。



◆幼児共育ふれあい広場◆

事例1 「おやこの真ん中に絵本を」

会場：しばはしさくらんぼ子供園（寒河江市）

講師：渡邊 裕子 氏（県家庭教育アドバイザー）



<研修内容>

【0～2歳児の保護者会】

～絵本ってどんなものでしょう 絵本の魅力に触れてみましょう～

- ・ 0, 1, 2歳児の子どもたちと絵本を楽しむには？
- ・ ちょっと見てどこかにいっちゃうけど？
- ・ いつからいつまで読んであげるの？
- ・ どんな風に読めばいいの？
- ・ 電子書籍もあるけど紙の絵本との違いは？
- ・ どんな本がいいのかな？



<参加者の感想>

- ・ 大人の考え方とは全く別の考えで、子どもは絵本を読んでいると再認識できました。
- ・ 二人の子を育てています。先生の話聞いて、5才の子はこんな気持ちだったんだ、1才の子には忙しくてちゃんと本を読めていなかった…と思わず涙が出てきました。絵本って大事ですね。先生の声にも癒されました。
- ・ 本はコミュニケーションの一つだと分かりました。いつまで経っても読み聞かせは続くものだと知ることができて、今後たくさん本を読んであげたいと思いました。

事例2 「しめ飾り作り教室」

会場：金山町農村環境改善センター（金山町）

講師：栗田 由香 氏

<教室内容>

- 1 親子でしめ飾りの手作り講座を楽しむ。
 - 2 講師の先生より、個別に丁寧に作り方を教えてもらう。
- 参加者同士、作品を見せ合うことで、交流が生まれた。また子どもたち同士もすぐに仲良くなり、作り終わると遊んでいた。



<参加者の感想>

- ・ 子どもが自分の好きなように考えて作ることができていい経験でした。
- ・ 物作りが好きな子なので、完成して嬉しそうな表情を見て参加してよかったです。
- ・ 子どもの自由な発想力に気づけました。

事例3 「親子で楽しむクリスマスリースづくり」

会場：肘折保育所（大蔵村）

講師：ハナ屋花店 軽部美貴子氏

<親子体験>

- ・クリスマスリース制作を通して、一緒に作る楽しさと親子のふれあいを図る。
- ・リースの土台に、針葉樹（スギ、ヒバなど）を巻き付け、その上にホットボンドを使って色付けた松ぼっくりや木の実、オーナメントなどを飾りつけた。



<参加者の感想>

- ・親子で一緒に作品を作る機会があって楽しい時間を過ごせました。
- ・親子でゆっくり楽しめました。ものづくりにいきおいがあってテンションが上がっている姿がとても良かったです。



事例4 「ひだまりおはなし会」

会場：宮内双葉保育園（南陽市）

講師：ひだまりおはなし会

<親子ふれあい体験講座「ひだまわりおはなし会」>

- ・子どもたちに馴染みのある絵本のストーリーに様々な楽器（電子ピアノ・チェロ・フルートなど）で効果音を付けたオリジナルの音楽劇の鑑賞

<参加者の感想>

- ・進行の方が引き込まれるような語りで魅力的でした。演じる方、音楽担当の方、語りの方、全てが素晴らしかったです。バックの絵も素晴らしかったです。
- ・素敵な生演奏を聴きながら迫力あるナレーションで孫たち以上に楽しめました。来年も楽しみです。
- ・子どもを家庭だけでなく、地域ぐるみで育てていくのは、本当に大切だと思う。



事例5 「親子でヒップホップダンス」

会 場：なかよしこども園（高畠町）

講 師：近野 裕 氏

<親子ふれあい体験講座>

- 1 「体の仕組み」について
- 2 親子でできる簡単な体幹トレーニングの
実践
- 3 リズムに合わせて体を動かそう、
そしてヒップホップダンスを楽しもう



<参加者からの感想>

- ・子どもへの接し方や声のかけ方など、見直すきっかけになりました。
- ・体を動かすことで自然に笑顔になった。
- ・子どもの頃から体のゆがみが出ていることを知りました。日常的にできるストレッチを知ることができて良かったです。



事例6 「家族で楽しむマジックショー」

会 場：認定こども園 杉の子幼稚園（遊佐町）

講 師：保科 元 氏（庄内町算数数学マイスター）

<親子体験>

- ・マジックショーを楽しみ、家庭でのふれあいのきっかけにする。

<参加者の感想>

- ・家庭に戻っても、同じ体験をしたことで会話が弾み、さらに楽しい時間を持つことができました。
- ・今回の講座をきっかけに、子どもの「自分もやってみたい！誰かに見せたい！」という気持ちが育ち、チャレンジする姿を家族みんなで見ることができました。そんな子どものやってみたい気持ちを引き出すのに、園や地域、家族の連携が大事なのだということを感じました。



事例7 「親子でネイチャーゲームを楽しもう」※小鳩保育園の実施事業

会 場：万里の松原（酒田市）

講 師：佐藤 裕子 氏、尾形 則子 氏、池田 留美 氏

（山形庄内ネイチャーゲームの会）

<親子体験>

- ・準備体操
- ・「同じものを見つけよう」：リーダーが事前に集めた自然のものと同じものを親子で探す。
- ・「フィールドビンゴ」：ビンゴカードを使い、親子で見つけたものにシールを貼る。
- ・「おにぎりカード」：おにぎりの杵を花や石に置いたり空にかざしたりしておにぎりを作って楽しむ。

<参加者の感想>

- ・虫や花木などを観察しながら小さい頃に自分が遊んだ時のことを思い出して教えることができたので楽しかったです。
- ・参加しなければたぶん知らずに過ごしていくと思うのですが、「子どもの日常」の中にもっと目を向けてみようと感じました。



◆家庭教育支援フォーラム◆

村山地区「家庭教育支援フォーラム」①

1 テーマ 「10人いれば10通りの受け取り方がある！」

～疑似体験を通して知的・発達障がいへの理解を深めよう～

2 期日・会場 令和6年5月10日（金） 村山総合支庁西村山地域振興局講堂

3 参加対象 山形県家庭教育アドバイザー、各小中学校教職員、市町教育委員会家庭教育支援担当者及び読書活動・図書館担当者、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、保育施設園職員、一般等（参加者41名）



4 内容 講師 知的障害者啓発隊「花笠ほ一ぶ隊」
（古澤 薫氏、長谷川 薫氏、二関 郁子氏）
疑似体験を交えた講座（100分）



- ・あなたならどう描く？（抽象の具体化、捉え方の違い）
- ・これ、なあに？（シングルフォーカス）
- ・言葉だけで図形を伝えよう
- ・視覚支援とは（写真の有効性、ピクトグラム、文字より色？）
- ・写してみよう（ディスレクシア、UDフォント）
- ・軍手で疑似体験（手先の不自由さ、言葉がけの影響力）



5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・体験的に学ぶことで、ここまで新たな発見や気づきがあるものかと思いました。今まで理解しているつもりでも、改めて向き合ってみると見えてくるものがあるのだと思いました。
- ・読み聞かせサークル、子ども教室等でメンバーと共有し、「理解しようとする地域の人」になりたいと思いました。町や学校で、「花笠ほ一ぶ隊のお話が聞きたい」と要望を出したいと思います。
- ・疑似体験によって、障がいのある方の世界を知ることができて大変良かったです。私自身が変わっていくことが大事だと思いました。皆同じ人間！素晴らしい内容でした。
- ・とても明るい花笠ほ一ぶ隊の方々を知ることができ、支援の仕事をしているものとして障害を持つ人の思いを伝えて広めてくださっていることに感謝したいと思います。とても貴重な学びの時間となりました。
- ・実際に色々なことを体験できて、支援が必要な子どもたちがどのように感じているのかを身をもって感じることで良かったです。これから子どもたちと関わっていく中で、その子がどんなことに興味があるのか、どんなことが好きなのかはっきり分かるようにして保育をしていきたいです。

村山地区「家庭教育支援フォーラム」②

1 テーマ 「自分の言葉で考えを伝える楽しさを
～『まる語』は魔法のアイテム～」

2 期日・会場 令和6年10月4日（金） 天童市立蔵増公民館 集会室

3 参加対象 山形県家庭教育アドバイザー、各小中学校教職員、市町教育委員会家庭教育支援担当者及び読書活動・図書館担当者、村山総合支庁子ども家庭支援課担当者、市町児童福祉部局担当者、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、保育施設園職員、一般等（参加者35名）

4 内容 講師（県家庭教育アドバイザー 菊地 喜美子 氏）
（1）講座（70分）



- ①自己紹介とまる語
- ②伝わる会話は発声から♪
口の体操、口の使い方、声の出し方、早口言葉、間の取り方など
- ③こころがまあるくなる言葉の使い方
- ④感想・振り返り・質問等

（2）意見交換（30分）

5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・言葉の発音の仕方、何気なく話していた口の使い方を気をつけるだけで、相手に伝わるようになるのだと思いました。何で伝わらないんだろうと思っているので、間の取り方や強弱、そして10才でも分かる言葉選びを気をつけたいです。
- ・この講座に参加する前、子どもを「言葉」で傷つけたことを悔やみ、自分を必ず変えたいと思っていました。思いやりの言葉「まる語」を知り、自分が言われて嬉しい、自分が使って自分も相手も心があつたかくなる言葉を今日から発します。子どもや妻の心の支えになる「言葉」を日々伝え、これからの人生を豊かに過ごしていきたいです。
- ・「言葉を見る」ということが最初分からなかったのですが、講座を聞いているうちに受け取る相手への配慮等でどんな色や形をしているか考えて発することだと分かりました。今後は自分の言葉がどんな形でどんな色なのかを考えて生活していきたいです。
- ・何気なく使っている言葉ですが、相手が親しくなる分だけ遠慮がなくなり傷つけ合ってしまうことも多々…。まる語を意識して人生をハッピーにしていきたいです。



最上地区「家庭教育支援フォーラム」①

1 期日・会場 令和6年6月29日（土） 新庄市エコロジーガーデン

2 参加対象 保育園・こども園関係者、小中義務教育学校教員、家庭教育支援者、市町村教育委員会・福祉部局家庭教育支援担当者、地区PTA協議会母親委員及び保護者等（参加者61名）

3 内 容

(1) グループワークを交えた講座（90分）

演題 「怒りの感情とうまくつきあい人生をもっと楽しく！

～思いが伝わる叱り方で円滑な人間関係～

講師 須藤 好子 氏（山形県家庭教育アドバイザー）

・怒ることのメリット・デメリット
・アンガーマネジメントとは
・私たちが怒らせるもの
・怒りの連鎖を断ち切ろう



(2) 感想交流・情報交換



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・日々の忙しさのせいにして、怒りやイライラは自分の心が作っていると知りました。でも、人は何度でも変わって、無理せず、親自身が幸せになれると知れて、怒りに対する思いも変わりました。今回、このような研修会を通じて知ることができ、大変よかったです。大変勉強になりました。
- ・日常生活の中で、常に冷静でいられたり、上手に叱ることはなかなか難しいことで、どうしても傷つけたり押しつけがましくなることがあります。こうした機会に自分自身を振り返るのか、そのまま続けるか、では大きな差があるように思います。少しずつ叱り方を変えていくことで、子育てが楽しくなるのかなと思いました。
- ・自分はどんなことに対して怒りの感情が出るのかを分析するいい機会になりました。ひと昔前の叱らない教育ではなく、コントロールすることが大切なのだと感じました。
- ・グループで話す機会が多くあり、参加型の研修会であったため、主体的に参加できてよかったです。
- ・ほかの学校の保護者や先生と接する機会がほとんどないので、ありがたかったです。大変有意義な時間を過ごすことができました。

最上地区「家庭教育支援フォーラム」②

1 期日・会場 令和6年9月3日（火） 遊学の森（金山町）

2 参加対象 保育園・こども園関係者、小中義務教育学校教員、家庭教育支援者、市町村教育委員会・福祉部局家庭教育支援担当者、読み聞かせサークル会員、放課後児童クラブ関係者等（参加者15名）

3 内 容

（1）講演と体験（120分）

演題 「ようこそ 森へ ～自然体験のススメ～」

講師 矢口 末吉 氏（前鮭川村教育長・森の案内人）

《講演》

- ・自然体験のよさ
- ・実際の活動例

《体験》

- ・ネイチャーゲーム(色さがし)
- ・ススキでフクロウをつくろう



（2）感想交流・情報交換



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・自然の中で様々な体験をすることで、子どもたちの発想力、危機感知能力の高まりが期待できることがわかりました。
- ・痛いことを知ることは、他人に痛みを与えないことを学びました。
- ・常に子ども目線で考えることがどれだけ難しいことか、大人はこれまでの経験などにとらわれているので、童心に帰る大切さを学びました。
- ・今の時代の子どもたちは、このような機会を設けなければ自然とふれあうこともなく、地域の自然に関する知識を伝えることも難しくなっているのだと再確認しました。
- ・葉っぱで遊び、童心にかえることができた。子育てや事業に生かしたいです。
- ・安全であることも大切だが、けがをして初めて知ることもあり、やってみることの重要さを感じました。
- ・ワークショップ「森の中に出かけてみよう！」で、いろいろな色を探してみましたが、ありそうでなかなか見つけられず、難しかったです。
- ・自然の中で学ぶことは無限であることを学びました。

置賜地区「家庭教育支援フォーラム」①

1 期日・会場 令和6年5月22日（木） 置賜総合支庁西置賜地域振興局 講堂

2 参加対象 山形県家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、幼稚園・保育園・こども園等関係者、子育て支援センター関係者
(参加者32名)

3 内 容

講演 「思春期のからだと心の健康～自律神経失調症からの身体症状～」

講師 小松 ひろみ 氏（山形県家庭教育アドバイザー）

1 はじめに

・家庭教育も時代とともに変化。

「しつけ」「生活リズム」より「ネット利用」「日々の生活」に。

2 大切にしたい3つの視点

① 連動している「痛み」と「不安」

・手を当てて心の痛みを聞く。

② 「生活リズムの乱れ」から「自律神経の乱れ」や「起立性調節障害」

・起立性調節障害について

・事例の紹介

・最寄りの学校の実態

③ 思春期の心のメカニズムを知る

3 家庭で大切にしたいこと

① どの子にも、どの大人にも、どの地域の方にも、平等に公平にあたたかく普段の会話から、情報や子育てのヒントを得ることが多い

② 子育て5か条に学ぶ 事実を事実として伝える

③ 多くの失敗やハプニングから学び、たくましい力を

④ 相談できる人を見つけ、人の力を借りる

⑤ 明るく大らかに生きていく姿を見せながら 困ったときは寄り添って

4 参加者のアンケートから（記述抜粋）



・子ども向けの分かり易い劇で課題が明確となり、対処法も子どもにも大人にも伝わるものでした。対応の参考になりました。

・メンタルヘルスの劇、どのようなものなのかな？と思っていましたが、とても面白く、とてもわかりやすいもので驚きました！私も実践してみたいなと思いました。

・今、子育て中であり、不登校支援にも関わっている中で、改めて大切と思えることをいくつかも教えていただき、気付かせていただきました。

置賜地区「家庭教育支援フォーラム」②

- 1 期日・会場 令和6年9月17日（火） 置賜総合支庁西置賜地域振興局 講堂
- 2 参加対象 山形県家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、幼稚園・保育園・こども園等関係者、小学校教員等（参加者43名）
- 3 内容
講演 「知的・発達障がいの理解啓発」、疑似体験
講師 古澤 薫 氏、長谷川 薫 氏、二関 郁子 氏
（知的・発達障害理解啓発キャラバン 花笠ほ一ぶ隊）



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・実際に体験してみることで、「??」が多く、「できないもどかしさ」「悔しさ」等を感じることができた。そこを「できた」「わかった」につながるサポートの大切さ、みんなでその個性を認めていく大切さを感じた。
- ・実際に体験してみたの気づきがたくさんあった。当たり前に行っていることは、誰かにとっては当たり前なことではないこと、それぞれの得意、不得意を理解して、フォローし合える世の中になっていければと感じた。職場の職員にも共有し、今後にかわっていきたいと思う。
- ・最後の動画の中にあつた障害のある方の「障がいがあつてよかった。」という言葉がとても心に残りました。まわりの人、環境、理解によってそう思うことができるようになるのだと感じました。私も障がいのある方が安心して過ごせるよう、理解し、手助けしていただける保育士、支援員になりたいです。

庄内地区「家庭教育支援フォーラム」①

1 期日・会場 令和6年6月27日（木） 庄内総合支庁分庁舎2号会議室

2 参加対象 保育士、幼稚園・小学校・中学校教諭、養護教諭、行政職員、
家庭教育アドバイザー等（参加者32名）

3 内 容

- (1) テーマ：「怒りの感情と上手に付き合おう
～アンガーマネジメントで自分も相手もハッピーに～」
- (2) 講 師： 須藤 好子 氏（県家庭教育アドバイザー）

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 怒りとは2 私たちを怒らせるもの3 アンガーマネジメントの3つのコントロール4 怒りの連鎖を断ち切ろう |
|--|



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・怒りを数値化することで客観的な分析につながり、そのことによって冷静に捉え直すことが可能になることがわかった。また、誰かに自分のことを話す自己開示の場面が多くあったので、そのことも第三者の立場で自分のことを見つめることができるのかもしれないと考えた。
- ・怒りやネガティブな感情が湧き上がってくる自分を客観視する視点を持つことができるようになったと思う。普段からガスを溜めこまないよう意識してリラックスする時間を作りたいと思う。
- ・自分の日頃の怒りを客観的に考えることができ、今後の対応を考えたり改めたりするよいきっかけとなった。みなさんと和気あいあいとワークショップができてよかった。
- ・家庭でも仕事でも、怒りの感情を持つとなかなか気持ちを切り替えられずにいることがあったので、考え方を教えていただき、参考になった。トライ&エラーで変わっていきける。日々の生活に生かしていきたいと思った。
- ・講師の先生のお人柄もあり、楽しく和やかに研修できた。怒りは防衛感情であり自然な感情なので、なくすことは不可能というお話が印象的だった。怒りの正体は自分の中にあり、自分でコントロールできるということを学んだので、アンガーマネジメントを心がけていきたい。

庄内地区「家庭教育支援フォーラム」②

1 期日・会場 令和6年11月1日（金） 庄内総合支庁講堂

2 参加対象 保育士、幼稚園・小学校・中学校教諭、養護教諭、行政職員、
家庭教育アドバイザー等（参加者32名）

3 内 容

(1) テーマ：「気になるあの子にわたしができること
～児童相談所からのヒント～」

(2) 講 師： 中島 貴史 氏（山形県庄内児童相談所
地域指導主幹（兼）次長（兼）児童福祉司）

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 山形県の児童虐待の現状2 児童相談所の役割3 様々な視点から子どもへの対応を考える4 子どもたちへの支援を通じて感じたこと |
|--|

4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・子どもの困り感を想像したり、探ったりしながら寄り添っていきたくて改めて強く思った。
- ・子どもだけでなく、保護者も支援するという視点を持つことも大切だと思った。子どもたちを取り巻くみんなで考えていく必要がある。
- ・子どもや保護者の思いをしっかりと傾聴することの大切さや難しさを改めて感じた。
- ・いろいろな観点から子どもたちを見ていくというヒントを得ることができた。「気になるあの子」に役立てられるよう、日々実践してみたいと思う。



◆子どもの読書活動推進研修会◆

村山地区「子どもの読書活動推進研修会」①

- 1 テーマ 「すべての子どもたちに『本』と触れ合う楽しさを
～こんな読書活動もあっていい!～」
- 2 期日・会場 令和6年7月3日(水)
河北町総合交流センター サハトベに花
(河北町立中央図書館、交流室A・B)
- 3 参加対象 公立図書館(室)職員、小中学校教職員、
読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、
市町教育委員会家庭教育支援担当者及び読書活動・図書館担当者、
市町児童福祉部局担当者、市町子育て支援センター・保育施設園職員、
一般 等(参加者59名)



4 内 容

- (1) 事業説明(15分)
- (2) 講話(50分)
講師：ラーワー ちひろ 氏(絵本作家)
- (3) 河北町立中央図書館・移動図書館車見学(20分)
- (4) 情報交換及びグループワーク(75分)
 - ・「私のおすすめの一冊」及び日々の実践について交流する。
 - ・多様な読書活動のあり方、取り組みや工夫について



5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- ・改めて子どもはそれぞれなので、みんなといっしょに行動するということが必ずしも正しいと思わなくて良いのだなと思いました。読み聞かせの時、全員聞いていないと思うとどこが悪かったのかと反省することもありましたが、そういう子もいるという認識で良いのかなと。
- ・支援が必要な子どもたちへの配慮として、「母国語が日本語ではない」又は「識字に困難を抱える」、今まで気がつかなかったことに気づくことができました。
- ・参加した方々の意見を聞くことができて良かったです。講師の先生との出会いが最高でした。
- ・絵本作りにあたって、絵本作家さんのお話を聞いておもしろかったです。なかなか作品作りの様子やインスピレーションを聞くことはできないので。
- ・子どもは今を生きている。大人は今までの中を生きている。その間を絵本(本)を読むことで楽しめる時間になれば良いと思いました。楽しい時間を共有できる読書が続けていきたいです。
- ・絵本に興味のない子どもがいても、それはその子の成長過程だと思って長い目で見るのが大切だと感じました。

村山地区「子どもの読育活動推進研修会」②

1 テーマ 「絵本には魅力がいっぱい！

～好奇心と想像力をかき立てる子ども真ん中の読み聞かせ～

2 期日・会場 令和7年1月22日（水）山辺町中央公民館（第1研修室、図書室）

3 参加対象 公立図書館（室）職員、小中学校教職員、 読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、 市町教育委員会家庭教育支援担当者及び読書活動・図書館担当者、 市町児童福祉部局担当者、市町子育て支援センター・保育施設園職員、 一般 等（参加者43名）

4 内 容

(1) 講 話（60分）

講 師：渡邊 裕子 氏（県家庭教育アドバイザー）

(2) 事例提供及び図書室見学（30分）

事例提供者：川村 陽子 氏

（山辺町中央公民館図書室 司書）

(3) 意見交換（40分）

- ・「私のおすすめの一冊」を紹介する。
- ・グループごとに講話や事例提供を受けての感想、日々感じていること等について付箋を用いて行う。



5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・「絵本は支えになる」というところにとっても共感しました。お話を聞いている間、昔読み聞かせしてもらっていた時の気持ちを思い出し、じんとしました。子どもたちにとって私もそういう存在になりたいと強く思いました。
- ・読みたい本ではなく、子どもたちが読んでほしい本という考えが自分にはなく、斬新な考えでした。本の帯を新着の紹介POPとして使っていますが、もっと他の使い道があるのかも、と新しい視点をいただきました。
- ・絵本も紙しばいも読んでもらうこと、とてもうれしく、楽しく、心の栄養をたくさんいただきました。いい時間でした。
- ・紙しばいの良さ、おもしろさを感じました。方言やソーラン節など、めっちゃ笑わせていただきましたあー！
- ・読み手は子どもの想像力や感情を邪魔しちゃいけないんだなあ、そういう気づきが必要かなと感じました。子どもはどこかでちゃんと話を聞いてくれている！

最上地区「多様な子どもの読書活動推進研修会」

- 1 テーマ 「多様な子どもの読書活動や、読書環境整備について
～新庄市立図書館の取り組みから～」
- 2 期日・会場 令和6年11月7日（木） 新庄市民プラザ・新庄市立図書館
- 3 参加対象 読み聞かせサークル会員、教員・保育士等、協働活動支援員等、学校支援ボランティア、公立図書館（室）職員、市町村教育委員会社会教育主管課担当者等（参加者35名）

4 内 容

- (1) 行政説明 「第4次山形県子ども読書活動推進計画」について
山形県教育局生涯教育・学習振興課 佐藤陽介 社会教育主査

- (2) 講演及び図書館見学

講師：新庄市立図書館 館長 高橋 一枝 氏
新庄市立図書館 副館長 阿部 明美 氏

【要旨】

- 「とらいあ」について(指定管理)
- 読書バリアフリーについて(大活字本、拡大写本、LLブック、点字本など)
- 「りんごの棚」について
- 新庄市立図書館見学



- (3) 情報交換

講演の感想と、日頃の読み聞かせ活動についての情報交換



5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・いろいろなツールを使える場や方法などをもっと広く広めて行ってほしいと思いました。
- ・「面白いと思える本がない」という中高生が、思わず手に取りたくなる学校図書館の環境整備や働きかけなど、読書や本に興味がない、持てない、敬遠しがちな生徒に図書館教育はどのように携わっていけばよいのかヒントを得たいです。
- ・いろいろなパターンを体験する機会があればいいと思います。
- ・朗読活動に興味があります。
- ・多様な読書に関しては、各機関ともまだきっかけをつかめていない気がします。学校、行政、図書館など、多方面で協力して進めて行くべきだと考えます。
- ・多様な子どもへの対応について学びたいです。
- ・アクセシブルな書籍を使った取り組みなど実際の事例を紹介、研修してほしいです。

置賜地区「子どもの読書活動推進研修会」

(兼 第2回公民館・コミュニティセンター・社会教育関係職員等研修会)

1 テーマ 「子どもが読書に親しむ環境づくり

～すべての子どもに本との素敵な出会いを～

2 期日・会場 令和6年11月7日(木) 川西町交流館あいぱる

3 参加対象 各市町教育委員会社会教育主管課、図書館職員、読み聞かせボランティア、小学校・幼稚園教諭、保育士、公民館・コミュニティセンター職員等
(参加者49名)



4 内容

(1) 講師：山田 昭彦 氏

(一般社団法人 JAPAN 絵本よみきかせ協会認定 絵本よみきかせセラピスト®)

(2) 講演及び演習

○講演「子どもを取り巻く読書環境づくりについて」

○演習「絵本よみきかせのコツ講座」



5 参加者のアンケートから (記述抜粋)

- ・仕事上、子どもたちに読むことはありますが、大人を相手に読むことはないため、読み聞かせをして、自分の良さを伝えて頂き、普段の保育を行う上でもとても自信になりました。自分の良さを活かして、これからも子どもたちに、自分の好きな本をたくさん読んで、絵本の楽しさを伝えていきたいと思います。
- ・楽しい絵本に出会うことができました。やっぱり絵本好きだなあ・・・と思いました。そして自分の好きが大事だということ、自分が楽しむこと、伝えたいと思う気持ち大切だということ。子どもに伝わればいいなあと感じました。
- ・読み聞かせに技術やコツはいらす、自分の思いを伝えることで、子どもたちが「楽しい」「もっと見たい」につながるのだと感じた。
- ・読み聞かせてもらうことは、ただ本を読んでもらうだけではなく、心の交流であることが実感できた。とても温かい気持ちになりました。

庄内地区「子どもの読書活動推進研修会」

1 テーマ 「今こそ読書の概念アップデート！～読書活動新時代へ～」

2 期日・会場 令和6年10月25日（金） 庄内総合支庁講堂

3 参加対象 子どもの読書活動に関わるすべての方、幼稚園・認定こども園・保育所教職員、小・中・高校教職員、市町図書館関係者、読み聞かせサークル会員、各市町職員、地域一般の方等(参加者 31名)

4 内 容

(1)説 明 「第4次山形県子ども読書活動推進計画について」

(2)講 演

講 師：川越 ゆり 氏（東北文教大学短期大学部子ども学科教授）

【要旨】①現代の子どもを読書に導くには最初が肝心
（読み聞かせと読書の橋渡し）

②大人側の先入観が本嫌いを増やしている可能性

5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・子どもの頃から、活字に触れる＝本を読むという感覚で育ってきた私にとって、今回の講演は目から鱗だった。私の感覚もアップデートして、子どもたちに還元できればと思う。
- ・紙を媒体とした読書だけでなく、デジタルやオーディオの機器を使った読書活動が当たり前になりつつあるのだと気づいた。思考力をつけさせるための読書ではなく、読書は楽しみであるのだと再認識できた。
- ・大人の読書に対する概念もアップデートしないといけないと感じた。絵本から児童文学につなげるためには、小さい時に文字を読んでイメージが膨らむ楽しさをたくさん経験させておいた方がよいということがわかった。
- ・読書に対する先入観が変わっていくことが再認識できた。学校図書館としては国語科の読解力を養う部分も残しつつ、先生の講話のような読書活動も進めていきたいと感じた。
- ・絵本と児童文学をつなぐ幼年童話の大切さを知ることができた。



◆子どもの読書活動推進講座◆

村山地区「子どもの読書活動推進講座」①

1 テーマ 「見て聞いてさわって！いっしょにさがそう！

絵本ハンターシーズンⅢ」

2 期日・会場 令和6年11月24日（日）山形県立図書館（遊学館）こどもエリア

3 参加対象 3歳～小学3年の子供とその保護者等（参加者16名）

4 内 容

活動協力：東北文教大学 児童文化部 学生12名

顧問：横沢 文恵氏

（東北文教大学短期大学部子ども学科 講師）

(1) 【聞いて】（中庭のデッキ）

- ・どんぐりやクリスマス等の秋冬をテーマとした絵本の読み聞かせをする。
- ・フルーツとピアノの響きを味わいながら絵本の世界を味わう。

(2) 【見てさわって】（こどもエリア全体）

- ・クリスマスのキーワードやエプロンシアター、紙芝居、大活字本、点字書籍等を親子で探しながらビンゴを楽しむ。
- ・ビンゴになったら県立図書館中庭のどんぐりや折り紙作品をゲット！

(3) 【やってみよう】（アクティブラーニンググループ）

- ・ビンゴでもらったどんぐりや折り紙作品を参考に、親子で作って遊ぶ。



5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・YouTubeなどの動画やスマホゲームに負けてしまうので、どうしたらいいか答えを求めてやってきました。工作に夢中になっていたのも、家でもやってみたいと思います。
- ・小さいうちから絵本に親しむことで本を読むのが当たり前の日常になるような習慣づけができたらいいなかなと改めて感じました。
- ・楽しかったです！お兄さんもお姉さんもやさしく対応してくれました。
- ・大人には思いつかないようなものづくりをしていて、子どものやりたいようにのびのび表現させることの大切さを感じました。
- ・エプロンシアターや大型絵本は、やはり子どもを惹きつけるなあと思いました。
- ・とても楽しく本さがしや工作をしていて、ビンゴのシールのものを絵本コーナーの中から探せる力が娘にあったことに驚きました。

村山地区「子どもの読書活動推進講座」②

1 テーマ 「Enjoy!フレッドさんと冬あそび」

2 期日・会場 令和7年2月15日（土） ひがしねあそびあランド

3 対象者 ひがしねあそびあランドに来た子どもと保護者等（参加者117名）

4 内容

講師：ラーワー フレデリック（Frederick Isaac Lauer）氏
（「カムイキッズ」共同設立者、ファシリテーター）

○英語の絵本の読み聞かせ

- ・雪や焚火等の冬をテーマにした英語の読み聞かせをする。
- ・お話を聞きたい子どもたちが自由に集まれるようにする。
- ・焚火を囲んだり屋根を作ったりして安全安心な場を設定する。

○好きな冬あそびをしよう

- ・子どもたちの「やりたい」「遊びたい」思いを中心に親子や子ども同士で好きな冬あそびをする。



5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・英語に楽しく触れさせたいと思っていたので、英語の絵本もいいなと思いました。英語の本の読み聞かせ、とても興味があります。
- ・雪あそびと読み聞かせの関連がとても良いと思いました。家でもやってみたいです。
- ・今日のように、風景と本の内容がリンクする体験はとてもいいと思います。
- ・制限されることなく自由にあそびができるプログラムで良かったです。欲を言えば、親向けの話も聞きたかったです。
- ・コミックでも何でも本人が読みたいと思ったものを否定しないで触れさせることが大事だと思いました。
- ・家でやらないこと、普段はなかなかできないことを同世代の子とやってみる体験におもしろさを感じました。
- ・小さい子どもが多かったですが、子どもたちがとても興味をもって参加し、手助けしながら遊べていて、親も見ている楽しかったです。

最上地区「多様な子どもの読書活動推進講座」

1 テーマ 「ようこそ！森へ～親子で楽しむ自然の物語～」

2 期日・会場 令和6年10月5日（土） 神室少年自然の家

3 参加対象 最上地区の小学生の親子（参加者 親子9組22名）

4 内 容

講師：○「多様な読書」の紹介 矢口しのぶ 氏(おはなしくまさん 代表)
○クラフト体験 神室少年自然の家職員
○おはなし会 おはなしくまさん・マザーズ（真室川町）

活動内容 ○おはなし会

○選択活動

A 絵本でスコアオリエンテーリング

B 木の実でクラフト体験



5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・本はもともと好きですが、神室で行うことで飽きずに活動できてよかったです。
- ・普段物づくりをしようと思っても、「やらない！」と言って挑戦することがあまりないので、親子で一緒に作ることができてよかったです。
- ・知らない本についても知ることができて、勉強になりました。
- ・自然の中で本に触れたことが心地よい時間でした。
- ・外での読み聞かせは初めてで、いいお天気で心地よく、親子共々いい時間になりました。
- ・読書支援のための道具が思った以上に多いことがわかりました。
- ・親子でコミュニケーションを取れたので、また参加したいです。
- ・いくつになっても、絵本は心の栄養になるなと感じました。
- ・一人一人の子に合った読書の方法があるのだと勉強になりました。
- ・りんごの棚のことを初めて知りました。子どもにも話してみたいです。

置賜地区「子どもの読書活動推進講座」

1 テーマ 『親子で楽しもう♪ 星空絵本』

2 期日・会場 令和6年7月13日（土） 飯豊町中部地区公民館

3 参加対象 置賜管内の幼児～小学6年生
親子9組 25名
(幼児5名 児童10名 保護者10名)
南陽市、米沢市、飯豊町からの参加



4 内 容

絵本の読み聞かせと星空の解説を組み合わせ実施

(1) 星空に関する絵本の読み聞かせ

講師：読み聞かせボランティア

「あ～すまいり～ず」

『あのほし なんのほし』『ひかりの星』

『ぼくはうちゅうじん』

『ダレ ダレ ダレダ』

『パパ、お月さまとって!』

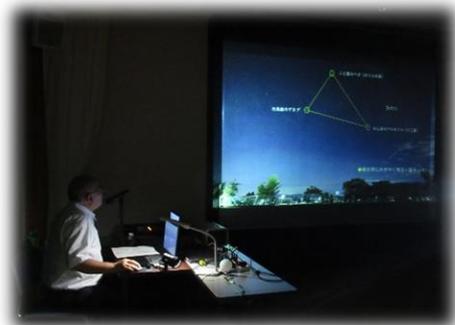


(2) 夏の星空解説

講師：手塚 秀幸氏

(いいで天文台天文研究会☆ペルセ)

- ・夏の大三角
- ・北斗七星
- ・星空から宇宙へ



5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・本は読んであげられますが、一緒に聞く機会がなかったので参加できてよかった。星空の説明もとても良かったです。
- ・読み聞かせがたくさんあって楽しかった。星のことが勉強になったと子どもが感想を言っていた。ありがとうございました。
- ・初めて参加させていただきました。春に長野県で星空観察をしたのですが、山形でもしたいと思います。



庄内地区「子どもの読書活動推進講座」

1 テーマ 「えほんとりサイクル工作でわくわくエコラボ」

2 期日・会場 令和6年9月28日（土） 酒田市総合文化センター

3 参加対象 小学1・2年生の親子13組26名（小学生13名・保護者13名）

4 内 容

(1) エコに関する絵本の読み聞かせ

①「ひとつがつくったどうぶつの道」

②「CO₂のりものずかん」

③「つくってあそぼう！かえるや」

講師：齋藤 宏樹 氏、山形 貴子 氏、竹村 珠美 氏

（読み聞かせサークル「絵本の部屋」）

(2) リサイクル工作教室「段ボールを使ったエアカーリングづくり」

講師：安藤 昭 氏（山形県環境科学研究センター）

5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・ 普段読まない本を読んでもらったことで、知らなかったことへの興味がわいた様子だった。工作は家でもう一つ作るとはりきっていて、とても良い経験になった。
- ・ 絵本の読み聞かせは子どもだけでなく親にも響いた。工作は子どもがとても喜んでおり、参加して良かったと思った。
- ・ 子どもへの本の読み聞かせをもっと積極的にしていこうと思った。



「絵本の部屋」の読み聞かせ



親子でリサイクル工作体験



完成したエアカーリングで遊ぶ